

第20回 北九州市景観審議会 議事要旨

日時：令和5年7月24日(月)10:00～11:35

場所：小倉北区役所庁舎 東棟 8階 811会議室

出席者：

委員 井上 龍子、大森 今日子、佐久間 治、柴田 加奈子、柴田 久、柚 剛、
田中 康子、中川 由夏、福島 規子、正富 晃規、松田 麻友美、松山 祐子、
横山 麻季子 13名 (欠席:中原 知美、三笠 友洋 2名)

事務局 総務部長 倉知、都市景観課長 渡邊、景観形成係長 近藤、主任 牧村

議事 北九州市景観審議会会長及び副会長の選任

・互選により会長:柴田久委員、副会長:井上龍子委員が選任された。

報告 北九州市景観づくりマスタープラン 中間報告

【景観誘導:景観アドバイザーについて】

- (委員) アドバイザーの人数、専門分野、情報発信の方法は。
- (事務局) 9名。建築デザイン・緑化関係・照明・彫刻・サインなど。
情報発信としては、ホームページやパンフレット作成、設計事務所や土木コンサルタンの集まり等にて制度説明を実施。
- (委員) 現在、興味がある人に情報収集してもらうスタイルから受取側が気づかされるスタイルに変化してきている。
- (委員) アドバイザーの意見を反映できなかった場合はどうなるのか。タイミングや予算・工期等の問題で、反映できない場合もある。
- (事務局) 市としては、初期段階での景観アドバイザー活用を促している。アドバイスを全て受け入れなければいけないわけではない。
- (委員) 初期に活用すると、事業費削減・施工の簡素化などが図られることがある。
このような効果面も発信していくとよい。
- (委員) 公共性の高い事業に関しては、初期段階で景観アドバイザー制度の活用を推奨するなど、次回マスタープランの改定にて位置づけられないか。
- (事務局) マスタープランへの位置づけは、今後の検討課題とする。
初期制度活用にメリットがあることを今後情報発信していく。
- (委員) 企業側の会合等にも、景観アドバイザー制度の説明は実施してくれるのか。
- (事務局) 連絡いただければ、是非説明させていただく。

【景観づくりの普及啓発・市民・事業者等の主体的な景観づくりの促進について】

○地域連携

- (委員) 景観が良くなれば、住みやすくなり、街も元気になって、次世代が育つ等の都市景観の整備効果・重要性を、もっと情報発信していくべき。
- (委員) 市民センターにおける啓発活動に若者が集まる仕組みを取り入れたら、次世代にも良好な景観形成の大切さが伝わっていくのではないだろうか。

- (事務局) 過去に景観アドバイザーを派遣し、地域の方と大学生が協力して地域のサイン計画・設置を行った事例がある。
- (委員) まち歩きなどを積極的に実施している市民団体も多く、地域の人しか知らない景観もある。このような団体等と連携していくことも検討しては。
- (事務局) 市民センターレベルでの地域連携は実施しているが、市民団体等の活動については把握していない部分もあるので、委員の皆様からも情報提供を是非して頂き、今後、連携していきたい。

○情報発信

- (委員) 各活動でパンフレット等作成しているが、統一性がなく、対象者が分かりづらいものが多い。デザインも異なり、なかなか人に定着しない。
イメージの統一性は大事である。過去のも含め整理が必要な段階ではないか。
- (委員) 情報発信先のターゲットを見定め、発信先・発信内容を整理し、戦略的に実施していくべき。
- (委員) 「時と風の博物館」などもあり、市として景観を広く知ってもらいたい意図もあるのだろうが、少し絞って見せたい景観や対象者(来街者・市民)の整理をしてはどうか。
- (事務局) 今後、工夫しながら実施していく。

○市民アンケート

- (委員) エリア限定することで課題・成果がみえやすくなるので、所管課で設問変更可能であれば、変更してはどうか。
- (事務局) 市民アンケートの設問変更は難しい。
- (委員) 市民アンケートは市民向けだが、観光部局等が景観や観光客からの感想・満足度・要望などの情報を把握しているのであれば、情報共有し相互活用していくことも必要。
- (事務局) イベント時には必ずアンケートを実施しているが、観光部局等との情報共有は現在実施できていないため、今後共有し次の企画に活かしていく。

○夜間景観

- (委員) 日本は夜が楽しめないといった問題がある。海外では、あかりを無くし暗闇を取り戻す活動もみられる。煌びやかに夜景を飾るだけでなく、暗闇の中に浮かび上がる鉄鋼等、オリジナリティな夜景計画もの手法の一つ。
夜景と昼間を分けて計画するのではなく、接続性も視野に入れば活性化に繋がる。
- (委員) 観光客の立場から考えると、皿倉山の夜景は綺麗だが遠く天候にも左右される。魚町や旦過からなど少し足を延ばせば夜景が見える場所があれば、是非情報発信して欲しい。
- (委員) 企業の協力が無いと厳しいが、ナイトクルーズにて世界遺産である官営八幡製鐵所旧本事務所などの施設見学と連動することができれば、夜景との相乗効果で素晴らしい体験ができるのでは。

(事務局) 観光部局とも情報共有し、より良いものにしていきたい。

○景観講座・景観まちづくり学習

(委員) 小学校訪問が毎年1校は少ない気がする。子供に景観への興味をもってもらう活動は重要。

(委員) 各イベントや景観講座など、実施後の評価はしているのか。

(事務局) 当課イベント等においては、北九州の景観に関する内容を含んだアンケートを実施。景観まちづくり学習は市ホームページに実績紹介している。

(委員) 小学校への協議時期も、戦略的に行えば年に数回実施の協力を得られるかもしれない。

○助成金関係

(委員) 木屋瀬地区には助成金があるが、他に地域育成などの助成金制度・バックアップ制度はあるか。

(事務局) 都市景観課として、木屋瀬地区の修理修景助成制度以外にハード的な補助制度はない。景観アドバイザー派遣制度やガイドライン作成補助といったソフト的なバックアップ体制を主としている。

【その他】

(委員) 都市景観資源が8件は少ない。もっと増やした方がいい。

(委員) 市外の方が、北九州と聞いて抱くイメージは、依然として工業都市であることが、本年の新聞社アンケートにもあったので、景観に限らず産業遺産の活用も視野にいれるべきではないか。景観から誘導するスタイルをマスタープランで策定してもよいのではないか。

(委員) 設計・施工者側への周知も重要だが、企業側や地域にも景観の重要性や地域特有の景観などを周知していくべき。

(委員) 人の動線、観光動線、利便性をセットで検討し、景観が加わることで大きな効果に繋がっていく。